

ハイブリッドオフィスへの転換

Native Union

柔軟に働ける職場へ。オフィス費用も削減。

40%
オフィス費用の削減率

50%
平均でリモート勤務する従業員の割合

2 : 3
デスク数と従業員数の比率

1年間の報告結果。写真と証言は2021年の導入事例に掲載されたものです。

01 / 働き方の変革

人を中心に考える一週間の働き方

従来型オフィスからハイブリッド勤務へ

パンデミック中、Native UnionはFLYDESKと協働し、従来型オフィスをハイブリッドモデルへ移行しました。このプロジェクトでは、職場環境と、同僚が勤務日を調整する方法の両方が変わりました。

この事例は2021年当時のプロジェクトを説明するものであり、Native Unionの現在の職場方針を示すものではありません。当時、テクノロジー製品企業の本社は香港にあり、パリとロサンゼルスにもオフィスを構え、英国と米国にリモートチームがありました。会社概要では、10年前に創業し、3大陸にまたがるチームを持つ企業と説明されていました。

オフィスを変える前に働き方を評価する

FLYDESKはマネージャーと従業員を対象にアンケートを実施し、事業目標の定義、支援ツールの特定、段階的な導入スケジュールの設定を行いました。評価の結果、Native Unionのオフィススペースは実際には60%しか利用されていないことが分かりました。

この取り組みでは、自宅、コワーキングスペース、従来型オフィスに対する従業員それぞれの好みを考慮し、移行の準備がまだできていない人への支援も検討しました。

週2日の柔軟勤務から始まった方針

Native Unionの物理的なオフィスがある都市に住む従業員には、リモート勤務の許可を求めず、週2日はどこからでも働ける選択肢が当初与えられました。

この事例では、月に1日を超える柔軟な勤務を認めることへの当初のためらいが記されています。その後、導入は週単位の習慣へと進みました。これはプロジェクト当時の方針であり、Native Unionの現在の取り決めを示すものではありません。

元の導入事例より / 共有オフィス



固定スペースを減らし、働き方の選択肢を増やす。

40%

報告されたオフィス費用の削減率

費用の削減率であり、床面積の削減率ではありません。

オフィス費用を40%削減

元の導入事例では、1年間でオフィス費用が40%削減されたと報告されています。詳細なオフィスに関する説明でも、予算が40%削減されたとされています。これは報告された金銭的成果であり、床面積が40%減ったという意味ではありません。

プロジェクト概要には、従業員3人にデスク2台を共有し、平均50%の従業員がリモート勤務するレイアウトが記されています。こうした結果に加えて、FLYDESK Appを通じた可視性とコミュニケーションの向上、リモート勤務が可能になったことによる従業員の満足度向上も報告されています。

銅鑼湾近くの共有オフィス2拠点

FLYDESKは必要なスペースを評価し、香港島の銅鑼湾近くに、互いに500m以内の共有オフィスを2拠点確保しました。1つ目は以前の従来型オフィスの半分の広さで、従業員50人がデスク30台と会議室を共有しました。マネジメントチームも共有デスクを利用しました。

2つ目の小規模なオフィスは、デザイナーとテックエンジニア10人向けに整えられました。事例には、4月1日の移転と予算40%削減が記録されています。共有レイアウトは、柔軟な勤務方針とFLYDESK Appによって支えられていました。

必要に応じて使うサテライトワークスペース

2019年、FLYDESKはパリの4人の従業員がコワーキングパートナーSpacesのホットデスクを無制限に利用できるよう支援しました。香港のオフィスへ移転した際、Native UnionはThe HiveのEnterprise Planを追加し、香港を拠点とする従業員が必要に応じて設備付きワークスペースを使えるようにしました。

このモデルは、2つの共有オフィスと、オンデマンドのサテライトオフィス7拠点を組み合わせていました。The Hiveの海外拠点を利用できることは、再び出張が認められた後の選択肢として説明されていました。これらは当時報告された取り決めであり、現在の提携先の利用可能性を示すものではありません。

スペースを予約し、働き方を可視化する

当初の導入では、従業員とマネージャーがFLYDESK Appを使い、共有オフィスのスペースを事前予約しました。オフィスが満席の場合は、The Hiveの会議室やホットデスクを予約できました。

アプリは、誰がどこで働いているかをチームが把握するのにも役立ち、分散型チームのコミュニケーションと信頼を支えました。この事例では、従業員満足度と生産性の向上も報告されていますが、いずれにも測定された割合は示されていません。

新たな働き方に踏み出す自信。

「従来型からハイブリッドモデルへ移行することは、当時は確かに大変そうに思えましたが、パンデミックのため必要でした」と、Igor Duc氏は述べています。

「結局のところ、私たちは以前の働き方に慣れきっていたので、この変化が受け入れられるかどうか分かりませんでした。しかしFLYDESKとの協業でプロセスは確実に円滑に進み、従業員がさらに満足できるよう、組織面のいくつかの点も改善できました。」

「現在、ハイブリッドオフィスは約2か月にわたり完全に機能しており、確かな力をもたらしています。自律性と柔軟性が高まったことで、誰もがより効果的に貢献しやすくなりました。」



Igor Duc

Native Union CEO

2021年の証言の日本語訳。
「約2か月」は、証言当時のオフィスについての記述です。

変革の歩みを、次の一歩の土台に。

次に計画されていたこと

元の文書では、業務プロセス、コラボレーションツール、フロア計画、NFCによるスペース検知の追加検討が挙げられていました。Microsoft Teams、Bamboo HR、インスタントビデオ通話も検討領域として話し合われました。これらは当時の計画であり、確認済みのプロジェクト成果や現在の機能の約束ではありません。

元のFLYDESK会社概要では、同社のサービス全体でオフィス費用が平均30%削減されたとも記載されていました。この過去の会社全体の主張は、Native Unionの成果ではありません。この導入事例で報告された顧客の数字は40%です。

Native Union自身が語るパートナーシップ

Native Unionは後日、2024年4月の記事でFLYDESKとの協業経験を共有しました。職場スケジュールを通じてオフィス勤務日とリモート勤務日を同僚と共有し、カレンダーを調整し、デスク予約で共有オフィスを管理したと説明しています。パートナーシップの内容は、顧客自身による説明をご覧ください。

関連情報

Native Union：FLYDESKとのパートナーシップ（2024年4月2日）（英語）

4つのハイブリッド勤務モデルとその背景を比較する

ハイブリッドチームの出社日を調整する

ハイブリッド勤務のスケジュール管理

出典：FLYDESKの導入事例「Native Unionのハイブリッドオフィスへの転換」原版1〜3ページ。本版では報告数値を保持し、お客様の証言を翻訳しています。当時の計画やFLYDESK全体の説明は、お客様の実績と区別しています。